

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.7</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御									
<b>Q2 サービス性能</b>					0.43			<b>3.5</b>	
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
<b>2 耐用性・信頼性</b>				2.9	0.50			<b>2.9</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		事務室:床タイルカーペットt6.5(フリーアクセスフロアh50)、壁EP(PBt12.5)、天井岩綿吸音板t9.0(PBt12.5)		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、給湯SUS(C)、排水VP(B)、Eは不使用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				2.0	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20				
3 電気設備				1.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				1.0	0.20				

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>4.1</b>	0.50	-	-	<b>4.1</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>4.6</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	6.15m以上	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	4.0	0.40	-	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	倉庫15000N/m <sup>2</sup>	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.2</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	将来用キュービクルスペースを確保	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.57</b>	-	-	<b>2.1</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>	-	<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>	-	<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>2.8</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	-	-	-	-
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>	-	-	-	-	-	-
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	-	-	-	-	-	-
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>		-	-	-	-	-
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		-	-	-	-	-
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	-
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.50</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	自動水栓に加えて、節水型便器などを採用している。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地、フリースペース採用	5.0	0.22	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>1.6</b>	0.20	-	-	<b>1.6</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>1.0</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	1.0	1.00	-	-	
	3 冷媒	-	-	-	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.50</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>		-	-	-	-	-
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>2.8</b>	0.50	-	-	<b>2.8</b>
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>2.5</b>	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>2.7</b>	0.50	-	-	<b>2.7</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>1.6</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	1.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	1.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標**

**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC
床	η AH	-	-

3.1.1 昼光率

昼光率 1.5%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 3.0%

**Q2 サービス性能**

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 6.15 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 10.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 15000 N/m2

**Q3 室外環境(敷地内)**

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 49% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 6% 舗装面積率 34%

**LR1 エネルギー**

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI<sub>m</sub> - 断熱等性能等級 0 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

非住宅部分

太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

集合住宅の評価

BEI/BEI<sub>m</sub> 再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 - -

**LR2 資源・マテリアル**

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP)

**LR3 敷地外環境**

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 #DIV/0! 隣棟間隔指標R<sub>w</sub> -

地表面対策面積率 6.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 #DIV/0!

見付面積S<sub>b</sub> ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W<sub>s</sub> 0 m 基準高さH<sub>b</sub> 0 m

緑地 376㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡